

私学協会長賞

水のささやき

不二聖心女子学院中学校

一年 山岡 さん

私が生まれ育った山梨県の富士五湖地域には名前の通り五つの湖があります。それらは、富士山の雪解け水が長い年月をかけて地中でろ過されて湧き出た水によって満たされています。湖の他にも富士山の周辺にはたくさん湧き池があります。

私は小学生の時、地元にある忍野八海という湧き池について学校で調べました。忍野八海は、はるか昔から水がきれいで、八大竜王という水の神様がまつられていたため、富士山に登る前に人々が心身を清める場所でした。二〇一三年、富士山が世界文化遺産に登録されたことで、忍野八海にも世界中から観光客が訪れるようになりました。多くの国からたくさんの方が集まりにぎわう一方、池の中にコインを投げ入れる人が目立つようになりました。その人たちの国では、その行いが平和を祈ることにつながるそうです。文化の違いによるこの行為は次第に広がり、池にはたくさんのコインが沈んでいるのが見えるようになりました。二〇一五年には、一年間で二万七千枚以上のコインが投げ入れられ、それらが環境サイクルをくずす有害物質となっていました。管理をしている忍野村は、ホームページや看板を作って呼びかけたり、投げ入れられたコインを回収するためにプロのダイバーをやったりするなど対処をし、これ以上悪化させないために努力していますが、もと

の状態にもどすのにはさらに多くの時間と費用が必要だと考えられています。環境をこわすのは簡単ですが、もとの状態にもどすのは大変だということを忍野八海は教えてくれています。

もう一つ、山梨県内で水に関する問題があります。県内には、水がきれいで自然豊かな川がたくさんあります。そのひとつ、山中湖から忍野村、富士吉田市などの県東部を東に流れて、相模川として神奈川県相模湾に注がれる桂川は、ヤマメやイワナなどの魚が多く生息するきれいな川です。しかし、最近是非常識な地元の人や観光客が、コンビニの袋やペットボトルなどのプラスチックごみをポイ捨てし、川を汚染しています。これらのごみは川の流れや太陽の光によって目に見えないほどの大きさのマイクロプラスチックになります。これは消化できずお腹にたまり続ける物なので、魚は本来食べるべきえさを食べられなくなり、死んでしまいます。一匹、一種の魚が減るだけでも、命のサイクルは少しずつ崩れていき、この状態が続くと生物多様性損失を阻止することが難しくなります。状況を改善するため、地域の住民で河原のごみ拾いをしたり、人が行く危険な場所にはネットをつけ不法投棄をおさえるなど対策をとっています。ポイ捨てやルールを守らない行いはどんなに小さくても大きな被害を出してしまうのです。

二〇一五年九月、国連で開かれたサミットで Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) が国際社会共通の目標として定められました。その中に、海の豊かさを守ろう(一四)陸の豊かさも守ろう(一五)という水に関わる具体的な目標があります。それだけを聞いても身近に感じられないことがほとんどかもしれませんが、私たちが身の回りには目標を達成する「かぎ」となることがたくさんあることを実感しました。「こわすのは簡単。もどすのは大変」ということ。「ひとつの小さな良くない行いが大きなロスにつながる」ということ。この二つのことを私たち一人一人が心にとめて行動しなければならぬと強く感じます。

川に捨てるなら、有害物質でなく「自分だけなら」という心。私のふるさとのすきとおった水は今もささやいています。